

「耳が聞こえず口の利けない人の癒し」

2022年02月09日

そこで、イエスはこの人だけを群衆の中から連れ出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾を付けてその舌に触れられた。そして、天を仰いで呻き、その人に向かって、「エッフアタ」と言われた。これは、「開け」という意味である。すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきりと話すようになった。(マルコ福音書7章33節～35節)

主イエスは、ティルス地方を去り、シドンを経て、デカポリス地方を通り抜け、異教徒の地を巡って、最初の宣教地ガリラヤに戻って来られた。戻って来たことが直ぐに知られ、人々は耳が聞こえず口の利けない人を連れて来て、手を置いて、癒してくださるようお願いした。この聾啞者は、彼の家族も当然いたであろうが、近所の人々に連れて来られた。近所の人々は、彼の障がいに関心を寄せ、主イエスに癒しを求めたのである。彼は「罪人」として人々から排除されることなく、愛されていた。

「イエスはこの人だけを群衆の中から連れ出し、指をその両耳に差し入れ、それから唾を付けてその舌に触れられた。そして、天を仰いで呻き、その人に向かって、『エッフアタ』と言われた。これは、『開け』という意味である。すると、たちまち耳が開き、舌のもつれが解け、はっきりと話すようになった。」主イエスは二人きりになるため群衆から連れ出した。指を両耳に入れ、唾を付けて舌に触れられた。そして、天を仰ぎ嘆息され、「エッフアタ」と宣言された。「エッフアタ」はアラム語で「開け」という意味である。すると、彼の耳は開き、舌のもつれが解け、はっきりと話すようになった。主イエスは彼を人々の所に連れ戻し、このことを誰にも話してはならないと口止めされた。しかし、口止めされればされるほど、人々は主イエスの癒しの業について言い広めた。彼を案じていた人々の喜びは大きく、「この方のなさったことはすべて、すばらしい。耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにした」と、驚きを込めて、言い広めない訳にはいかなかったのである。主イエスが天を仰いで起こした力強い奇跡を伝えている。

主イエスは、癒しの業を行った後、しばしば口止めし、隠すことを命じておられる。聖書学者たちは、このことを「メシアの秘密」と言って、様々な議論を展開している。初代教会において、イエスがメシアであり、神の子であるということを他の者たちに証言させ、イエスご自身は復活後に到るまで、何も言ってはならないと命じたということにしたのではないか。それは、イエスがご自分を隠したり、否定しようとしたのではなく、キリストの真の姿を不十分な理解をされることを避けるためであったという理解である。

主イエスは、苦しむ者の癒しを通して、神の憐れみと慈しみを現したのであって、隠す筋合いは全くないであろう。神の恵みのリアリティを示すことが、主イエスの生涯の実像である。しかし、主イエスは人の罪の赦しのために、ご自分を十字架に献げることが最大の使命であった。この十字架にこそ、キリストの真の姿が啓示される。病気の癒しや悪霊からの解放に、人々の視点と関心が向けられ、キリストの姿がかき消されてしまうことを恐れ、口止めされたのではないか。もう一つは、主イエスは、過越しの祭りに屠られる小羊になるように、過越しの祭りに十字架につけられるように、時を計りながら、エルサレムに上っておられる。癒しの業が群衆に騒ぎ立てられ、十字架の時を逸することを避けたいと口止めされたのではないか。主イエスは、民衆に大歓喜の中で受け入れられ、大騒ぎとなったが、キリストとしての十字架の使命を全うされ、人間の救いを成就された。